

心身相互作用の認識論と存在論

——主観性はポパーの相互作用主義を挫折するのか——

池田 健人 (Kento Ikeda)

大阪大学大学院人間科学研究科

本発表の目的は、たとえ心が主観性をその本性とするものであるとしても、だからといって、それによりポパーの相互作用主義が挫折させられることはない、と主張することである。ポパーの相互作用主義とは、身体だけでなく、心もまた存在するということを認めただけで、心と身体の関係は相互作用だと議論する立場である。こうした心と身体の間をめぐっての問題は心身問題と呼ばれているが、もともとポパーは心身問題を解決できる見込みのないものと考えていた (Popper 1976 [2002])。しかし、1950 年ごろから、相互作用主義の陣営に身を置きつつ、ポパーは心身問題へと本格的に取り組み始める (Boyd 2016; Popper 1974)。それ以来、ポパーは心と身体、とりわけ脳の間を考察する数々の著作を公表してきた。

これら著作において展開されるポパーの心身相互作用論には、心の主観性を根拠とした批判がある。その批判によれば、たとえいかなる形態のものであるとしても、一般に心身相互作用論は成り立たない。なぜなら、心は主観性をその本性とする対象だからである。この批判は、ムンツ (Munz 2007) により提出された。ムンツによれば、心身相互作用論には定義の問題がある。

心身相互作用論は心という対象の言語化、つまり定義を要件とする立場なので、心の本性が主観性であるのなら、心身相互作用論を支持しながら主観性の定義を避けて通ることはできない、とムンツはいう。だが、主観性とは非言語性であるため、主観性を定義することは原理的に不可能である (cf. Svensson 1994)。してみれば、総じて心身相互作用論は却下されなければならない。こうした説明により、ポパーの心身相互作用論を、ムンツは間違いだと非難している。

しかし、ポパー (Popper 1972 [1979]) が述べているように、心身相互作用を研究するうえで、心それ自体は必ずしも定義されなければならないわけではない。とくに、心身相互作用は、機能の観点から研究される (Popper 1978)。これは、心という主観的対象ではなく、心身相互作用という客観的対象、あるいは事態に照準を合わせる発想である。機能主義的な言語論とダーウィン主義的な進化論を背景に、ポパーは機能の観点から心身相互作用を分析することを提案している。

ポパーの心身相互作用論は、いわば心身相互作用の存在論 (心と身体が相互作用する現象の存在についての理論) である。それに対して、ムンツは心身相互作用の認識論 (心と身体が相互作用する機序の認識についての理論) を批判している。ところが、なぜ心身相互作用の認識論を批判することが存在論の否定に有効なのかは不明である。本発表では、そうしたムンツの批判は不十分であるだけでなく、ポパーの相互作用主義が主観性により断念させられることはない、と主張する。

参考文献

- Boyd, B. 2016. 'Popper's World 3: Origins, Progress, and Import', *Philosophy of the Social Sciences* 46(3): 221–41.
- Munz, P. 2007. 'The Phenomenon of Consciousness from a Popperian Perspective', *Consciousness Transitions: Phylogenetic, Ontogenetic, and Physiological Aspects*, ed. Århem, P. and Liljenström, H., pp. 307–26, Elsevier Science & Technology.
- Popper, K. 1972 (1979). *Objective Knowledge: An Evolutionary Approach*, Oxford: Clarendon Press. (『客観的知識：進化論的アプローチ』、森博訳、木鐸社、1972年)。
- Popper, K. 1974. 'Replies to My Critics', *The philosophy of Karl Popper*, ed. Schilpp, P. A., pp. 961–1197, La Salle, Illinois: The Open Court.
- Popper, K. 1976 (2002). *Unended Quest: An Intellectual Autobiography*, London and New York: Routledge Classics. (『果てしなき探求：知的自伝』、森博訳、岩波書店、1978年)。
- Popper, K. 1978. 'Natural Selection and the Emergence of Mind', *Dialectica* 32(3/4): 339–55.
- Svensson, G. 1994. 'Reflections on the Problem of Identifying Mind and Brain', *Journal of Theoretical Biology* 171(1): 93–100.